

「平和と戦争」ヨリ改題（第七五頁）

國務長官ヨリ日本大使（東京）宛

一九三九年（昭和十四年）七月二十六日

近年ニ至リ合衆國政府ハ合衆國ト對外國トノ間ニ

實行中ノ通商航海條約ニ施テ新ル條約ガ締結セラ

レタルソノ目的ニ資スル爲メニ必要トセラレル改

變ヲ決定スベク不條約ヲ吟味調査中デアリマス。

コノ調査ヲ通シテ合衆國政府ハ一九一一年（明治

二十四年）二月二一日「ワシントン」ニ於テ調印

セラレタル日米通商航海條約ニハ新タナル考慮ヲ

具スベキ條項ガ含まレナキルトノ遺憾ニ到達致シ

マス。新發展ニ伴ヒ長求セラルベキ米國ノ利益

ヲ増進シ且ツ安全防衛スルノ目的ヲ以テ前述ノ考

慮ニ對スル方法ヲ準備スルニ當リ合衆國政府ハ右

ニ参照セル條約第七條ニ規定セラレタル手續キ

ニ導シテ條約ノ廢除セラレシコトヲ希望シ、以テ

茲ニ通告致スモノデアリマス。而シテ新ク通商後

該條約ハソレニ添附セル地盤ト共ニ當日附ヨリ六

ケ月後ニ於テ効力期間満了セラルモノト期待スルモ

ノデアリマス。

コイデル、ハル、

Doc 2215 P1

國務長官ヨリ日本大使（東京）宛

一九三九年（昭和十四年）七月二十六日

近年ニ至リ合衆國政府ハ合衆國ト諸外國トノ間ニ
實行中ノ通商航路條約ニ就テ新ル條約ガ締結セラ
レタルソノ目的ニ賛スル爲メニ必要トセラレル改
變ヲ決定スベク石條約ヲ吟味調査中デアリマス。
コノ調査ヲ進シテ合衆國政府ハ一九一一年（明治
四十四年）二月二二日「ワシントン」ニ於テ調印
セラレタル日米通商航海條約ニハ新タナル考慮ヲ
與スベキ條項ガ含まレナキルトノ遺憾ニ到達致シ
マシタ。新發展ニ伴ヒ兵隊セラルベキ米國ノ利益
ヲ増進シ且ツ安全防衛スルノ目的ヲ以テ前述ノ考
慮ニ對スル方法ヲ準備スルニ當リ合衆國政府ハ石
ニ参照セル條約第七條ニ規定セラレタル手続キ
ニ準ジ本條約ノ廢除セラレシコトヲ希望シ、以テ
茲ニ通告致スモノデアリマス。而シテ斯ク通商後
該條約ハソレニ添附セル地帯ト米ニ當日附ヨリ六
ヶ月後ニ於テ効力ヲ失フ了セラルモノト期待スルモ
ノデアリマス。

コイデル、ハル、

Doc 2217 P1

53

國務長官ヨリ日本大使（東京）宛

一九三九年（昭和十四年）七月二十六日

近年ニ至リ合衆國政府ハ合衆國ト國外國トノ間ニ

實行中ノ通商航海條約ニ就テ新ル條約ヲ締結セラ

レタルソノ目的ニ資スル爲メニ必長トセラレル改

變ヲ決定スベク石炭條約ヲ吟味調査中デアリマス。

コノ調査ヲ通シテ合衆國政府ハ一九一一年（明治

四十三年）二月二十一日「ワシントン」ニ於テ印

セラレタル日米通商航海條約ニハ新タナル考慮ヲ

具スベキ條項ガ含まレナキルトノ結論ニ到達シ

マス。新發展ニ伴ヒ要求セラルベキ米價ノ利益

ヲ増進シ且ツ安全防衛スルノ目的ヲ以テ前述ノ考

慮ニ就スル方法ヲ準備スルニ當リ合衆國政府ハ右

ニ参照セル條約第七條ニ規定セラレタル手續キ

ニ準ジテ條約ノ解除セラレシコトヲ希望シ、以テ

茲ニ通告致スモノデアリマス。而シテ新ク通商後

該條約ハソレニ添附セル證書ト共ニ當日附ヨリ六

ヶ月後ニ於テ効力相同了セラルモノト期待スルモ

ノデアリマス。

コ―デル、ハル、

Doc 2216 P1

國務長官ヨリ駐米日本國大使（瀨内）宛

一九三九年（昭和十四年）七月二十六日 華盛頓

閣下 更米利加合衆國政府へ、後述ノ如キ諸條約

ヲ締結セラレタ目的ヲ一層充分ニ遂行スル爲ニハ

如何ナル變更ガ必長テアルベキカラ決定スル目的

ニテ、最近數年間、米國ト諸外國間トノ現行通商

航海條約ヲ調査シテ來タ。此類ニ中ニ、更米利加

合衆國政府へ、一九一一年（明治四十四年）二月二

十一日華盛頓ニ於テ訂印セラレタル日米通商航海

條約ニハ新タニ考慮ヲ要スル條項ガ密スト云フ

締結ニ到達シタ。前述ノ考慮ノ實施ヲ準備スル爲、

且ツ新發展ノ長計ニ依ル米國利益ノヨリ充分ナル

保護功成ノ爲ニ、前記條約第七條ニ規定セラレ

タル手續ニ順應シテ、更米利加合衆國政府へ、此

處ニ該條約終了欲求ノ通告ヲ發シ且ツ、附帶セル

覺悟ト共ニ、該條約へ、此日附ヨリ六ヶ月後期限

満了スルコトヲ希望スル旨通告スル。

コイデル・ハル

Doc 2217 P2